



2014-15 年度 R I のテーマ「ロータリーに輝きを」
R I 会長 ゲイリー・C. K. ホアン (Light Up Rotary)

八戸南ロータリークラブ会報



●ガバナー 工藤 武重 ●会長 榎 清蔵 ●幹事 伊藤 斉 ●コミュニケーション委員長 米内 安芸

ホームページ : <http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/>

Email : hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

RI 第 2830 地区ホームページ : <http://www.rotary-aomori.org/2014/>

第 1922 回例会記録《会員卓話例会》
2015 年 3 月 19 日 (木) 点鐘 12:30
レポート No. 1355

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか

第 1922 回例会要旨

- ・ 会長要件
- ・ 幹事報告
- ・ 各委員会報告
 《出席・親睦》
- ・ 会員卓話



熊谷 S A A



《出席報告》田守副委員長
正会員数 44 名。本日の出席は免除
会員 6 名を含む 24 名。出席率 62%
です。前々会の例会は、メーキャ
ップなし、出席率 72%でした。

《ビジター》

木村 宗義 様 (八戸 RC)

《会長要件》榎会長



剣道六段の工藤十四子さんが天国に旅立たれました。強い精神力の人で約二年前に病気が判ってから、治療、回復を願っていました。私たちも工藤さんが絶対に元気になって明るい顔で戻ってくるだろうと期待していましたが、残念でたまりません。葬儀、通夜に行ってきましたが生前本人がご自分の事がよく解ったうえで、感謝と言う手紙を残されていました。特に剣道に携わる人へのメッセージでしたが、南ロータリークラブの皆さんにも感謝していますと綴られていました。メッセージもご自分の声で残されていました。特に大きな文字で書かれていたところを書き留めてきました。「感謝、工藤十四子『思い出してくれた時、風になり、花になり、鳥になりあなたの隣にいつもおられます』と言う言葉を大きめに書いておられました。いつまでも元気な顔を忘れないようにしたいと思います。

皆さんのレターボックスに「工藤十四子さんと剣道」というものを入れてあります。これは平光さんをお願いして作ってもらいました。工藤十四子さんの剣道の歩みのようなものですが、皆さんにいつまでも覚えてほしい、思い出に残るようにしていただければと思います。特に平光さんは最近病室にお邪魔して看病しながら、本人の希望を聞きながら一番身近にいてくれた方ですので平光さんをお願いしました。64 才と言う若さでしたので本当に悲しい出来事ですが、いつまでも皆さんの心の中に残っていただければ幸いです。

《幹事報告》伊藤幹事



・本日、大橋さんの入会式の予定でしたが本人欠席の為来週行います。

・新会員候補者のお知らせです。吉田賢治氏、(株)ニシキデザイン、代表取締役副社長、職業分類は屋外広告、推薦者は久保田会員です。会員増強委員会を経て理事会で承認されました。ご異議のある方は 3 月 26 日正午までに文書にて幹事まで申し出て下さい。

・例会変更のお知らせです。八戸 RC 4 月 1 日 (水) 任意休会、4 月 29 日 (水) 休日につき休会 (メーキャップ不可)、八戸東 RC 4 月 24 日 (金) 時間場所変更

・十和田東 RC より創立 50 周年の案内が届いています。4 月 25 日 (土) 午後 1 時登録受付です。来週出欠表を回しますのでもよろしくお願ひします。

・ガバナー事務所より「きれいな水」プロジェクトの案内が届いています。青森放送と FM 青森に広告が流れます。

・ハイライト米山が届いています。

《ニコニコボックス》平光委員長

榎会長 : 三川会員、西村会員よろしくお願ひします。

伊藤幹事 : PETS に行ってきました。

熊谷会員 : 平光さん写真ありがとうございました。

平光会員 : 来週親睦活動委員会担当例会です。ゲストスピーチを予定しているので、皆様多数ご出席お願ひします。

本人誕生日 : 下田会員



《PETS 報告》伊藤会長エレクト

先週の土・日、吉田次年度幹事と一緒に PETS に出席してきました。今年は一泊二日で行く前はとても大変だなと思っていましたが、当日の懇親会などで

他地区の皆さんと色々なお話が出来、こういうのもいいものだなと思いついてきました。鈴木ガバナーエレクトの方針を皆様にお伝えします。次年度の2830地区の方針は「ミラクル1200を再び」です。会員増強に取り組むと言う事です。RIのテーマは「世界へのプレゼントになろう」で、それには沿ってはいないかもしれませんがRI会長も会員増強には触れていましたので、当地区としても会員増強に取り組み、来年の1月1日には1200名を達成したいと強い思いを述べていました。そのほかの事はこれから折に触れお伝えしたいと思っております。



《会員卓話》西村会員



昨年の9月に新入会員として皆様のお仲間に入れて頂いてから半年たちました。この間先輩の会員の皆様が献身的にロータリー活動に関わっているのを目の当たりにして参りました。そこで自分はいったい何が出来るんだろうと自問自答を続けておりました。私もいつまでも新人気分ではられない、今日はどんなお話をしようかと考えておりましたところ、先日例会で黒田会員がRIの報告をされた時にそのヒントを得ることが出来ました。黒田会員のお話の中でRIの今後の活動方針を六つに絞り込むとおっしゃられておりその中の一つに母子保健の推進の項目がありました。母子保健は産婦人科医である私が30年あまりに亘って関わってきた分野でありますので今日はそのお話をしたいと思っております。一言に母子保健と言ってもその意味は非常に多岐にわたっています。今日は短い時間ですので妊娠、出産さらに少子化と言うあたりにお話を絞ってみたいと思っております。

さて妊娠、出産を巡る環境は発展途上国と日本のような先進国では大きく異なります。発展途上国は今でも多産多死、多くの赤ちゃんが生まれるけれども多くのお母さん或は新生児が命を落とすと言う状態ですが、日本ではその逆の少産少死と言う状態になっています。しかし日本もかつては多産多死だったのです。いろんな指標がございますが代表的な「妊産婦死亡指数」と言うのがございまして、これは妊娠、出産にかかわる母体（女性）の死亡率がどれくらいあるかと言うものですが、戦後間もない1950年頃には日本では約3,000人の女性が命を落としていました。お産も命がけの時代だったと言う事になります。それから30年後の1980年頃になりますと十分の一の約300人に減り、近年では年間30人ないし40人位でこの60年で約百分の一に減ったと言う事になります。もちろんこれは医療技術の進歩、生活レベルの向上の賜物です。しかしそれが分娩の安全神話と言うものを生むようになってしまいました。つまり出産でお母さんや赤ちゃんが亡くなる事はないと、広く世間では思われるようになってきたのです。しかしこれだけ医学が進歩した現在でも分娩には一瞬のうちに思わぬ危機的な事が起きてしまいます。こういう事はいまだに厳然たる事実で一瞬先は闇と言うような綱渡りのような思いを私らはしております。そ

うこうしているうちに私達産婦人科医にとって悪夢と言うか衝撃的な事件が起きました。大野病院事件です。これは2004年に福島県にある大野病院の産婦人科で帝王切開を受けた女性がその後死亡して、執刀医が逮捕、起訴されたと言う事件でした。この裁判は幸いにも4年後に無罪と言う判決を勝ち取ることが出来ました。しかし私達産婦人科医から見ますと何の過失もなく、突発的な急変に最善の対応をしても結果が悪ければ逮捕されるというのであれば分娩を扱ってはいられないと言う危機が広がりました。産婦人科医の減少、お産を扱う施設の減少にさらに拍車がかかると言う事になってしまいました。八戸市内に限ってみますと約30年前にはお産の出来る施設は3つの病院と、開業の産婦人科が10軒程度はあったと思いますが、5年前には2つの病院と4カ所の産婦人科・クリニックに減り、現在では2つの病院と私がやめたせいもありますが2つの産婦人科・クリニックの合計4カ所と言うようにどんどん減って、皆様も大変お困りな状態になっていると思っております。

次に少子化についてですが、30年前との比較になりますが3月3日の新聞記事に出生減少全国ワースト2位と有り、これは青森県の事ですが青森県は何でも下から2番目、3番目なので驚かないかもしれませんが、30年間で13,000人も減った、つまり30年前には年間20,000人の出生がありましたが現在では9,000人ちょっとに減っています。55%以上の減少と言う事になります。このまま減少が続けば2040年、つまり25年後には現在131万人の青森県の人口が93万人に減り、八戸市も20万人を切り、さらには消滅する町村も少なからず出てくると言うように予想されています。もちろんこれは青森県だけの問題ではなくて、かつての戦後のベビーブームの頃には200数十万人の赤ちゃんが生まれていましたが、今では100万人を切ってやはり半分以下になっています。このままでは100年後には日本人がほとんどいなくなってしまうのではないかとする予測もされています。しかし悲観的な事ばかりも言っていない、少子化対策が日本にとって最大の課題であると言う事が今や共通の認識になっていると思っております。例えばフランスなどは様々な出産育児政策を講じて人口減少を食い止める事に成功しております。3月8日付の新聞には合計特殊出生率1.8と言う記事が載っていました。これを国の目標にしようと言う事が妥当かどうかと言う記事です。この合計特殊出生率と言うのは一人の女性が一生の間に何人の子供を産むかと言う平均値の事です。現在では1.2から1.3くらいの間です。ですから1.8というのは大変高い目標で簡単に出来ることではありませんがもし達成できれば日本は長い間に渡って約1億人前後と言う人口を保つことが出来、安定した活力ある社会を維持できるとされております。

数字ばかり並べて退屈なお話になってしまいましたが最後に私の外来での具体的な実感をお話したいと思います。私のクリニックは2年前にお産を辞めました。妊婦健診は市民病院と連携して行っておりますので、妊娠して出産を希望される方は数多く受診されております。しかしそれと同時に妊娠したけれども生むことが出来ないと言う方も少なからず

来られます。事情を聴きますと多くが経済的な理由です。或は幼児を抱えていて今すぐ2人目は無理と言う方もおられます。私はつくづく考えてしまいます。こういう方々が安心して産みますと言えるように、国と社会が、国民皆が出産・育児をしやすい環境を整える事に本当に本気になって取り組めば今の少子化を食い止める事が出来るのではないのでしょうか。

《三川会員》



会長から退会防止についてお話をしたいと言う事なのでちょっとだけお話をさせていただきます。今ここに私が立っていることは会長の退会防止のために立っていると言うように言えなくはない訳で、会長の下に皆で一致団結して会を盛り上げて、榊会長年度を全うさせてあげたいと言う思いを皆さん常に持っていると思います。榊年度も残り少なくなりましたが大いに盛り上げて創立40周年記念例会を成功に導きたいと思っています。

退会防止に何が役立つかと言う事でちょっと考えてみますとスポンサーが自分が入会させた会員をきちんとフォローする、励ます、常に支える、そういう事をしっかりと行ける事が大事だと思います。事実私のスポンサーは大澤会員と音喜多会員ですが、私が入会した後よく声を掛けて頂いて、度々いろん

な事に誘っていただき色々なロータリーの情報を教えてくれたり、私たちが入っている会のあり方や現状等お話して頂き、やめるとかそういう事は言えない、ありがたいなと言う思いを強くした経験があります。このことを次の世代に伝えて行くことが大事です。自分がスポンサーとして入会させた会員は責任をもってフォローしていくと言う事です。私も心掛けていきたいと常々思っています。私がスポンサーとなった会員はまず榊会長です、榊会長を責任をもって支えていきたいと思えます。次に清川会員、清川会員にも入っていただきその後、幹事として活躍され、我が南ロータリーの為に頑張っておられます。清川会員も私が責任をもって支えていきたいと思えます。そして吉田立盛会員、来年は幹事で再来年は会長と言う事で非常に目覚ましい活躍をされていらっしゃいます。この方も私は一生懸命責任をもって支えていかなければなりません。私の会長年度が終わって少しのんびりしようかと思いましたがそうもいかないようです。私が推薦して入会して頂いた会員の方をこれからも支えていかなければなりません。もう一人山形さんと言う方がいらっしゃいますが、仕事が忙しく中々会には出てこられませんが、なるべくやめないように時々声掛けをしています。以上4名の方をこれからもしっかり支えていくつもりです。皆さんもスポンサーとなって入会させた方が沢山いらっしゃると思えます。その方を是非これからも責任をもって支えて頂きたいと思えます。